

ちょっと変わった留学生の就職

—— 総合科学部非常勤講師 ——

写真提供

総合科学部

総合科学部非常勤講師

アービン、パトリック・ティモシー
Ervin, Patrick Timothy

(文学部外国人研究生 昭和57年3月修了)



私は多くの面でちょっと変わった留学生だったと思う。と言うのはアメリカ人の私が広島大学で米文学を専攻したこと。そして今も日本で働き、今後もずっと住むつもりであること。一般の留学生は日本の最新技術、日本の文化、日本語などを修得するために日本の大学へ入学する。そして、その学びが終わると自分の国に帰られる方が多いと思う。なぜなら日本には外国人留学生に開かれた職場が少ないからだと思う。日本の進んだものを日本人以上に努力して修得したとしても、活躍の場が日本国内にはない。留学生のみならず外国人は限られた仕事にしかつことが出来ないような気がする。外国の大学を卒業した日本人を必死に探す企業も、こと外国人採用となると大きな門は開かないようである。しかし近年外国人採用の企業も増加しつつある。がそこには外国から呼んでくる青い目の外国人である。いまだ日本に残る外人コンプレックスである。また外のものは何でもよく見える「隣の芝生」である。

日本人はその人がどんなに優れた技術を持った人間であろうと日本人以外は信用しない。外国人は外人で、日本では外人には出来ない仕事が沢山あると考えているようだ。しかし短期間なら外人パワーを借りる。また、安い賃金で働くならいいですよ。自分勝手に

考えだし、一種の差別であろう。

最近、テレビのニュースで企業専属のスポーツチームに外人選手を加えて、パワーアップするという話題があった。たぶんデパートのチームだったと思う。しかし「一チームだけ外国人を加えることの出来ないと思われるチームがある」と司会者が言った。「警視庁チームである」と。日本人には何の不思議もない話であろう。しかし私からみれば変なのである。なぜ警視庁は外国人を採用することが出来ないのでしょうか。

大学を考えてみたいと思う。なぜ日本語で医学や、哲学や、心理学を教える外国人教師がいないのだろうか。たしかに、外国人の教師数は増えている。しかしほとんどが語学関係の教師である。私もその中の一人である。外国人には語学以外のことを教えることは出来ない、はじめから日本人の多くは考えているのではないのでしょうか。利根川博士はマサチューセッツ工科大学で英語で講義をしておられる。アメリカはどここの国の人であろうと優れたものは何でも受け入れる国だと思う。国によって事情が違うから直ちにアメリカのようにすることはできないだろう。しかし、今の日本は大国なのである。西洋のものを受け入れるのみの国際化や、アジア諸国に対する対外援助のみの時代は終わった。目先の利潤のみ追求するのではなく、長い目でみて、真の互いに利益となることは何かを真剣に考える必要があると思います。あらゆる面で本当の開放政策を望みます。私は日本が好きだからあえて厳しいことを述べました。